



日本平滑筋学会ニュースレター

No.9 2015.7.30

—平滑筋研究の未来を拓(ひら)く—

第57回総会を迎えて

第57回日本平滑筋学会総会 (<http://jssmr57.umin.jp/index.html>) は山口大学大学院医学系研究科 生体機能分子制御学教授・小林 誠会長のもと、宇部市にて開催されます。小林会長に抱負を伺いました。

発行所: 日本平滑筋学会事務局
〒701-0192 倉敷市松島 577
川崎医科大学消化管内科学
TEL: 086-462-1111
FAX: 086-462-1199
E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp
HP: <http://www.jssmr.jp>
発行責任者: 春間 賢
編集者: 高木 都

ご挨拶

小林 誠

このたびは、第57回日本平滑筋学会総会を、2015年8月25日(火)～27日(木)の3日間、山口大学小串キャンパス(医学部)総合研究棟で開催させていただき、誠にありがとうございました。会員の皆様には、歴史と伝統ある本会を主宰させていただきます事に、心から感謝申し上げます。

本総会のテーマは、「平滑筋研究の未来を拓(ひら)く」としました。

平滑筋は、消化器、循環器、泌尿生殖器など、多様な臓器に存在しているのみならず、発現している蛋白質や刺激に対する反応性も異なり、実に多様性に富んでいます。そして、平滑筋の研究者たちもまた、それぞれが多岐にわたる専門分野を持っており、実に多様性に富んだ集団と言えるのではないかと思います。この様に、多様性に富んだ平滑筋を研究対象として、これまた多様な分野の研究者が、基礎と臨床を問わず一堂に会するのが、平滑筋学会総会です。この様な事を考えているうち、本総会のテーマ「平滑筋研究の未来を拓(ひら)く」に続く言葉として、「多様性(Diversity)」が浮かびました。しかし、平滑筋研究の未来を拓くには、多様性だけでは足りない様に感じました。それぞれの研究成果が一つの場に集まり、互いを知り、意見を交わす事によって、多様な人々・多様な研究が互いに連携する事が、平滑筋研究の進歩に繋がると考え、「多様性(Diversity)」に続く言葉として、「連携(Coordination)」を選びました。

第57回日本平滑筋学会総会では、「平滑筋研究の未来を拓(ひら)く」道標として、平滑筋ホスファターゼ活性調節の中心となる CPI-17 を発見された江藤真澄先生(米国トーマスジェファソン大学)、

腸壁内神経の再生・新生に希望の光を灯して下さった高木都先生(奈良県立医科大学)に特別講演をお願い致しました。また、「平滑筋研究の未来を拓(ひら)く」新しい試みとして、シンポジウムを公募しました。その結果、良い意味で総会事務局の期待を裏切る構成となりました。さらに、「平滑筋研究の未来を拓(ひら)く」礎となる若手研究者や学生の参加を促すため、これまでの優秀演題賞候補講演の中に「学生部門」(大学院生+学部学生)を設け、また、恒例となった若手の会のシンポジウムも前回大会と同様に軽食の提供を継続致しました。

本総会が、平滑筋学会会員の皆様にとって有意義なものとなり、テーマ通り「平滑筋研究の未来を拓く」ようになる事を、心から願っております。

Contents page

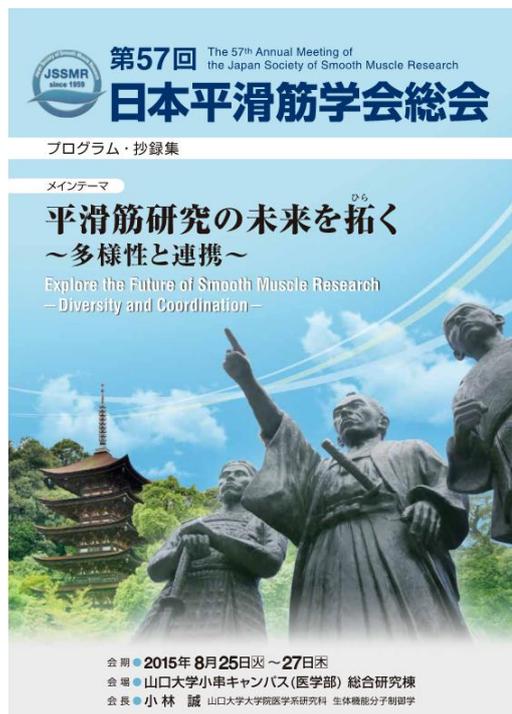
*第57回日本平滑筋学会を 迎えて	小林 誠	1
*会員計報		1
*入会のお誘い		1
*第56回総会を終えて		2
第56回日本平滑筋学会 総会を振り返って	峯 徹哉	
理事会・評議員会報告	楠 裕明	
*白鳥常男賞決まる		3
*JSMR 優秀論文賞は酒井 寛泰氏に		3
*「若手の会」活動報告とお 知らせ	伊原栄吉	4
*学会ロゴマーク決まる		4

会員計報
謹んでお悔やみ申し上げます。
水流弘通(元評議員)
2015/2/18

日本平滑筋学会へ ご入会を

本会は平滑筋に関わる基礎・臨床研究者が集う日本医学会所属学会です。機関誌 Journal of Smooth Muscle Research は“IF 相当値”が3前後で国際的にも評価されています。学術集会では優秀発表を学会賞として表彰しています。皆様のご入会をお待ち申し上げます

(E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp)



平成 26 年 8 月 6 日から 8 日まで第 56 回日本平滑筋学会総会を新横浜プリンスホテルで開かせていただきました。プログラムは例年どおり優秀演題賞候補の講演から始まり会長講演、栗山賞受賞講演と続きました。栗山賞の受賞講演は 3 題あり、一人目が川崎医科大学消化管内科学 筒井 英明先生で咽喉頭異常感を伴う胃食道逆流症における食道運動異常の役割-プロトンポンプ阻害薬治療に抵抗する因子の解析でした。二人目は九州大学大学院医学研究院分子細胞情報学の斉藤 寿郎先生で血管収縮性の内在性概日リズム形成 Rho-Associated Kinase2 の役割に関する研究でした。三人目は星薬科大学医薬品科学研究所 機能形態学研究室の田口 久美子さんで GRK2, with β -arrestin 2 impairs insulin-induced Akt/eNOS signaling in ob/ob mouse aorta でした。いずれも素晴らしい内容であり、この学会でしか聞けない組み合わせの演題でした。会長講演は私が行いましたが消化管運動についての私の関わりとしました。内容は消化管運動はカハール介在細胞が関与しており、中でもギャップ結合が重要な働きを行っているという内容でした。特別講演は春間理事長の司会で群馬大学大学院医学系研究科臓器病態学 教授の倉林 正彦先生に講演を御願いました。彼は循環器内科の教授で東大で私の後輩に当たります。血管平滑筋細胞と血管石灰化について講演していただきました。これもこの学会ならではのことだと思います。私の学会の目玉のひとつに括約筋関連シンポジウムがあげられます。括約筋はいたるところにあります。これをまとめたシンポジウムは私が初めて開いたのではないかと思います。まず瞳孔括約筋収縮機構を旭川医科大学の高井章教授に講演していただき、下部食道括約筋の制御を岐阜大学大学院 連合獣医学研究科 獣医生理学研究室の椎名貴彦先生に講演を御願ひし、更に日本医科大学消化器内科 教授になられた岩切勝彦 先生、横浜市立大学附属病院 消化器内科の稲森正彦先生に臨床的なお話しをしていただきました。さらに十二指腸乳頭括約筋機能の異常を九州大学の臨床腫瘍外科の高畑俊一先生に御願ひし、排便制御を東北薬科大学病院消化器外科の柴田近先生に、排尿平滑筋を名古屋市立大学大学院医学研究科 細胞生理学分野 橋谷光先生に、下部尿路機能に対する副交感神経興奮に対して東邦大学薬学部薬理学の小原圭将さんに御願ひしました。漢方セミナーを行っていただいた武田宏司先生と若手の会シンポジウムをお世話いただいた先生方、また一般演題を出していただいた先生方に感謝を申し上げて終わりたいと思います。また第 57 回日本平滑筋学会総会小林 誠先生頑張ってください。

第 56 回日本平滑筋学会総会 理事会・評議員会報告

日本平滑筋学会事務局 楠 裕明

平成 26 年 8 月 6 日(水)に新横浜プリンスホテルにて開催されました理事会・評議員会について報告いたします。会員構成は平成 26 年 7 月 25 日現在、個人会員数 434 名(基礎 179 名、臨床 229 名、その他 26 名)、団体会員 4 団体で、新入会 29 名、退会 19 名でした。

英文誌 JOURNAL OF SMOOTH MUSCLE RESEARCH が第 49 巻より電子ジャーナルとしてインターネット上 (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsmr>) に掲載されており、無料でダウンロードできるようになっております。

春間賢財務委員長からは平成 25 年度の収支報告と平成 26 年度の予算が発表され、会員の皆様のご協力でご費納入率が向上し、また電子ジャーナル化によって雑誌制作費を大幅に抑えられたため、当面は健全に運営できるようになったと報告されました。

本年度にて栗山熙賞は終了しましたが、故白鳥常男先生のご遺族のご厚意にて基金を賜り、平成 27 年度より白鳥常男賞を発足させる事になりました。

元理事長の佐々木巖先生、また瓦林達比古先生が理事を退任され、理事増員のため会則を改変し、後任に東原正明先生(北里大学)、峯徹哉先生(東海大学)、瓜田純久先生(東邦大学)の 3 名が新理事として承認されました。現評議員 11 名が再任し、新評議員として坂井貴文先生(埼玉大学)、松本英男先生(川崎医科大学)、倉原琳先生(福岡大学)、伊原栄吉先生(九州大学)、竹谷浩介先生(旭川医科大学)、海野倫明先生(東北大学)の 6 名が承認されました。選挙にて新監事に井上隆司先生(福岡大学)、第 57 回総会副会長に柴田近先生(東北薬科大学病院)が選出されました。第 57 回総会会長の小林誠先生からは平成 27 年 8 月 26 日(水)~8 月 27 日(木)に山口大学小串キャンパスにて開催予定とのご報告がありました。第 57 回総会にも多数ご参加頂き、盛会となる事を期待しております。

第1回 白鳥常男賞 決まる

白鳥常男賞は、平滑筋・筋電図研究会(後の日本平滑筋学会)発起人であられた、故 白鳥常男先生(奈良県立医科大学・名誉教授)の遺徳を偲び、平滑筋及びその関連領域の若手研究者の研究奨励を目的として、2014 年に設立されました。本賞の対象者は、平滑筋およびその関連領域の進歩に寄与する優れた研究を行い、将来発展が期待される国内会員の若手平滑筋研究者(応募時満 45 歳以下)であり、授与は毎年 3 件以内とし、受賞者には賞状および副賞 10 万円が授与されます。

第1回白鳥常男賞は、以下の 3 名の方の受賞が決まりました。受賞者の喜びの声を伺いました。

●竹谷浩介氏(旭川医科大学 生理学講座自律機能分野 助教):Takeya K, et al. Endothelin-1, but not angiotensin II, induces afferent arteriolar myosin diphosphorylation as a potential contributor to prolonged vasoconstriction. *Kidney Int.* 2015 Feb;87(2):370-81. doi: 10.1038/ki.2014.284. Epub 2014 Aug 20.

この度は栄誉ある第 1 回白鳥常男賞を頂きまして、身に余る光栄です。これもひとえに共同研究者であるカルガリー大学の Dr. Walsh, Dr.Loutzenhiser 並びにラボメンバーの支援の賜物です。先日、受賞の報告をしたところ我事のように喜んで頂けたのが何よりの喜びです。今後もこの栄誉に恥じないよう、平滑筋研究の発展に貢献していく所存です。最後に私を推薦して下さいました高井章先生、並びに選考委員の先生方に感謝申し上げます。(竹谷浩介)

●川村雅彦氏(東京慈恵会医科大学附属病院 外科 助教):Kawamura M, et al. Assessment of motor function of the remnant stomach by 13C breath test with special reference to gastric local resection. *World J Surg.* 2014 Nov;38(11):2898-903. doi: 10.1007/s00268-014-2660-6.

この度、はからずも記念すべき第1回白鳥常男賞を受賞させて頂きありがとうございます。私がおんな喜びを得ることが出来たのは良き先輩、仲間にもぐまれたおかげです。本当に心から感謝申し上げます。10 年前に羽生信義先生、中田浩二先生から研究について時に厳しく、丁寧にご教授いただき、スタートした研究は今では仲間が6人にまで増えました。今後もお世話になった諸先輩のご厚情に報いるべく一生懸命頑張りたいと思います。(川村 雅彦)

●倉原 琳氏(福岡大学医学部 生理学教室 講師):Kurahara LH, et al. Intestinal myofibroblast TRPC6 channel may contribute to stenotic fibrosis in Crohn's disease. *Inflamm Bowel Dis.* 2015 Mar;21(3):496-506. doi: 10.1097/MIB.0000000000000295.

平滑筋学会の発起人であられる白鳥常男先生の賞の第一回を受賞することができ、大変嬉しく光栄に思っています。受賞論文の内容は筋線維芽細胞と消化管線維化に関わるものですが、昨年の年会で尾崎先生のご講演にもありましたように、「筋線維芽細胞」は「第二の平滑筋」として、平滑筋学会で徐々に市民権を得られていることを実感しています。井上隆司先生の御指導に感謝して、今回の受賞を糧に平滑筋学会の益々の発展に尽力して参りたいと思います。(倉原 琳)

尚、第2回白鳥常男賞募集の詳細については、近日中に学会HP <http://www.jssmr.jp/>に掲載予定です。多数のご応募をお待ちします。

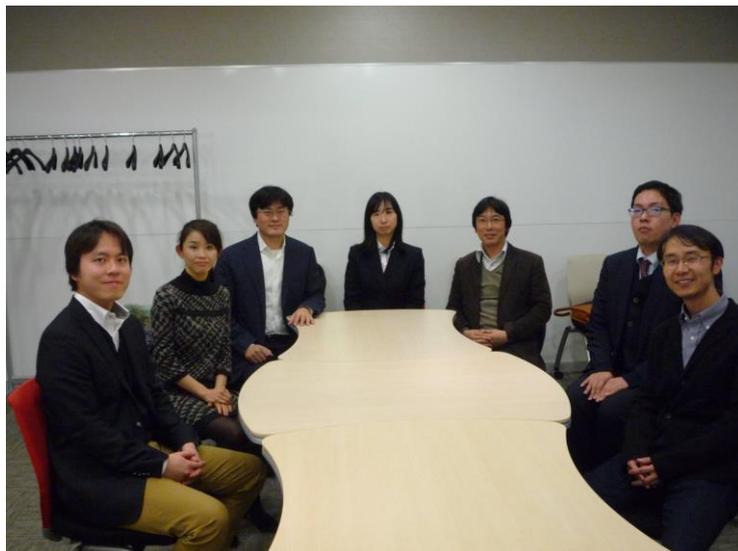
Journal of Smooth Muscle Research 優秀論文賞は酒井寛泰氏らに

日本平滑筋学会は機関誌 *Journal of Smooth Muscle Research* がさらなる発展を目的として優秀論文賞を創設しました。各巻毎に、会員が筆頭著者である掲載論文すべての中から、最も優れているものを原則として 2 編表彰するものです。第 50 巻(2014 年)につきましては、星薬科大学

酒井寛泰氏らの論文 Augmented bronchial smooth muscle contractility induced by aqueous cigarette smoke extract in rats. Sakai H, et al. *Journal of Smooth Muscle Research* 50: 39-47, 2014 に決まりました。酒井先生は第 57 回総会時に受賞講演をされることになっています。

－「若手の会」活動報告とお知らせ－

2015年の「若手の会」の活動についてご報告申し上げます。2015年1月30日名古屋にて、山村彩(金城学院大学)が当番幹事のもと、冬期「日本平滑筋学会若手の会」意見交換会が開催されました(写真右)。第1部では、3名による研究発表が行われました。発表内容は、堀田祐志先生(名古屋市立大学)による「モデル動物を用いた泌尿器疾患の基礎研究」、竹谷浩介(旭川医科大学)による「ウシ毛様体筋に対するPP2A阻害剤の作用」、山村彩による「肺高血圧における性差」でした。アットホームな雰囲気の中にも大変熱い議論が繰り広げられ、すばらしい研究会(勉強会)となりました。特に、今後平滑筋学会入会を考えておられる堀田祐志先生(名古屋市立大学)に参加して頂けたことが有意義でした。



次に、第57回日本平滑筋学会総会にて開催されます「第3回目若手の会シンポジウム」について御紹介させていただきます。「若手の会シンポジウム」は、「基礎と臨床」「女性研究者と男性研究者」の観点から「若手から平滑筋研究をつなぐ」をメインテーマに掲げております。司会は、山村寿男(名古屋市立大学)と倉原琳(福岡大学)が担当致します。昨年行われた第2回若手の会シンポジウムに関するアンケート調査にて、Discussionの時間を多くとった方がよいというご意見を多数頂いたこともあって、今回はシンポジストの数を1名減らし、5名としました。今回、基礎研究分野から3名(女性2、男性1)、臨床研究分野から2名(女性1、男性1)によるシンポジウムを予定しています。今回のシンポジストも、現在大変ご活躍中の研究者ばかりですので、オーガナイザー(倉原/山村)のもと、すばらしいシンポジウムになるものと確信しております。乞うご期待です。また、昨年に引き続いて小林誠会長のご好意により、会場にフリースナックやドリンクが用意される予定です。第57回日本平滑筋学会総会、若手の会シンポジウムに是非ご参加くださいます様、よろしくお願い申し上げます。

(文責 若手の会会長・九州大学病態制御内科・伊原栄吉)

日本平滑筋学会ロゴマーク決定



第55回日本平滑筋学会総会にて、学会ロゴマークを作成することが提案され承認されました。その後、募集に対し、7名の会員から応募がありました。その中から広報委員会にて3作品を選出し、最終的には第56回日本平滑筋学会総会時の理事会で投票が行われ、金賞および銀賞が次の様に決定いたしました。

- 金賞: 平野勝也先生(香川大学)
- 銀賞: 倉原 琳先生(福岡大学)

金賞に選ばれた上記作品について平野先生から解説を頂戴致しました。

- ・輪は平滑筋細胞が形成する管腔臓器をシンボル化したもの。
- ・横たわる平行四辺形は、単離平滑筋細胞をイメージする。先端の尖りで、過去(左)から未来(右)へ続く平滑筋研究の歴史と進歩を表す。
- ・これらの2つの図形を組み合わせ、全体でアルファベットのQの文字を表し、平滑筋研究の尽きぬ疑問(question)、飽くなき追求(quest)を表す。
- ・図形の光沢は、学会と平滑筋研究の輝きを表す。

今後、本図案は学会ロゴマークとして広く使われることとなります。